

4月・自然教室チーム観察会報告
春の奈良公園 (個性豊かな桜の競演)

4月12日(火)、朝から天候に恵まれ、定刻の午前10時、近鉄奈良駅行基菩薩像前には自然教室メンバーの7名のみならず、当会会員9名に会員のお友達1名を含む17名が集合、奈良公園ならではの個性豊かな桜観察会が始まりました。

皆さん、「ソメイヨシノ」が散り始めると桜の季節はもう終わりと思われていませんか。否！奈良公園の桜の見ごろはこれからなのです。

会報4月号でも紹介しましたように、奈良では氷室神社のシダレザクラが先陣を切り私達に桜の季節到来を伝えてくれますが、その後ソメイヨシノ、オオシマザクラ、ナラノココノエザクラ、サトザクラ、カスミザクラ、ナラノヤエザクラと開花時期を変え、礼儀正しく主役の座を譲って行きます。



そして今(私達が観察会を開いた4月12日前後)はナラノココノエザクラが主役となる時期なのです。

【ナラノココノエザクラ】 ナラノココノエザクラは一般の八重桜と同じくヤマザクラが重弁化した品種ですが、特徴はガク片が大小10枚あることです。昭和12年に天然記念物に指定された奈良を代表するナラノヤエザクラの開花は更に

1~2週間ほど遅れますので、開花の時期で見分けが付きますが、こちらのガク片は他の桜と同じ5枚です。奈良公園では、開花時期以外でも見分けが付くよう、ナラノココノエザクラには青いリボンが幹の金網に付けられています。また、別の目印として「九」の字が書かれたプラスチックの札



【桜の雪景色の中の奈良の鹿】

が付いている事も有ります。ナラノヤエザクラの方は白のリボンに「八」の札が目印です。皆様も探して見てください。

さて、そのナラノココノエザクラが散る頃の名物が、地面いっぱいに雪のように降り積もった桜の花びらを食む鹿の姿です。幻想的なその光景には心を奪われますが、桜と鹿の関係はそれだけでは有りません。奈良の樹木と言えば旺盛な鹿の食欲で、下の方の枝や葉は食べられてしまい足元のすっきりとしたものになってしまいます。所謂ディアラインと呼ばれるものですが、東大寺大仏殿北側にある二本のシダレザクラはそれによりおかつぱ頭の様な形になっています。今では誰が名付けたか「おかつぱ桜」と言う名



【おかつぱ桜前での集合写真】

前で親しまれています。タイミング良く観察日の翌日、毎日新聞の朝刊にも紹介されました。

他にもたくさんの楽しい自然との出会いがありました。

▽一の鳥居近く雄鹿のたむろする場所では参加者のお一人が鹿の菊座ゲット。



【鹿の角の菊座】

▽桜と同じバラ科のザイフリボクの凜とした白い花

▽チューイングガムがわりになるマツグミの実

▽優雅さを感じさせるシキミの花

▽東大寺回廊基壇東側では鹿の影響で矮小化した可憐な花が私達を迎えてくれました。:ハナイバナ、ヒメウズ、キランソウ(別名ジゴクノカマノフタ)、ハハコグサ、キュウリグサ等々です。

そして、観察会の最後には、年に2度しか開扉しないと言う勸進所内の公慶堂にて秘仏・重文の公慶上人座像を拝観。こうして、善男善女の奈良公園における観察会は幕を閉じました。

皆様たくさんのご参加有難うございました。

(辻本 信一)